

平成30年度（第62回）

岩手県教育研究発表会

確かな学び、豊かな学びをつなぐ

～資質・能力を育む教育課程の実現と授業改善～

多数のご参加ありがとうございました。

さる2月7日（木）・8日（金）に、花巻温泉、総合教育センター及び生涯学習推進センターを会場として、第62回岩手県教育研究発表会を開催しました。県内外から2日間でのべ2,500名を超える参加者を迎えての開催となりました。

1日目の全体会は、総合教育センター提案授業（総合教育センター 研修指導主事 早川 貴之）と講演会（講師 千葉大学教育学部 特任教授 天笠 茂 氏）を行いました。

全体会の総合教育センター提案授業では、矢巾町立矢巾中学校1年3組の生徒を会場に招き、総合教育センター 研修指導主事 早川 貴之による中学校国語の提案授業を行いました。講演会では、天笠 茂 氏から、新たな時代を切り拓く資質・能力の育成に向けて、新学習指導要領において示された「カリキュラム・マネジメント」の趣旨と実現に向けた方策について講演をいただきました。

今年度は、本県の教育課題を踏まえた5つの特設分科会（特設1「学力向上」、特設2「学校マネジメント」、特設3「生徒指導」、特設4「プログラミング教育」、特設5「部活動」）を設定しました。

特設分科会1「学力向上」では、平成30年度の先進実践校である小・中・高等学校の3校による取組の発表、その後、学力保障の取組について「学校の組織的対応の強化」という視点から協議を行い、岩手県教育委員会事務局 学校教育課総括課長 小久保 智史 氏から助言をいただきました。

特設分科会2「学校マネジメント」では、八幡平市教育委員会によるコミュニティ・スクールの取組等の発表、そして、我が国の喫緊の課題でもある「働き方改革」をテーマに、花巻市教育委員会と石鳥谷小・中学校の研究発表とパネルディスカッションを行いました。

特設分科会3「生徒指導」では、「不登校にならない、魅力ある学校づくり」を目指した滝沢市の実践発表とパネルディスカッションを行い、その後、国立教育政策研究所 総括研究官 中野 澄 氏から講演をいただきました。

特設分科会4「プログラミング教育」では、花巻市立矢沢小学校5年2組の児童を会場に招き、総合教育センター 研修指導主事 黒澤 和則による小学校算数のプログラミングの提案授業を行いました。

特設分科会5「部活動」では、宮城教育大学 准教授 神谷 拓 氏から講演をいただいた後、生徒の主体性を育む部活動運営を目指して取り組んだ中・高等学校の実践発表、そして、「自主的・自発的な部活動の推進」と題してシンポジウムを行いました。

全体会には589名、特設分科会1は126名、特設分科会2は140名、特設分科会3は72名、特設分科会4は124名、特設分科会5は92名の参加者を得て、大変充実した内容となりました。

分科会では、各教科領域・教育課題等17分科会において、91主題の授業実践、研究成果が発表されました。講演会やパネルディスカッション、ポスターセッション等を位置付けた分科会もあり、興味深い新たな知見を学んだり喫緊のテーマについて協議したりするなど、大変充実したものとなりました。それぞれの発表の成果が、これからの岩手の教育の充実につながることを期待しております。

ご多用の中、講演講師、パネリスト等を務めてくださった皆様、研究発表された発表者の皆様、そして、発表者を推薦してくださった各教育関係機関、企画展に出品してくださった各学校、さらに、運営に当たってご支援とご協力を賜りました花巻温泉のスタッフの皆様をはじめ、関係各位に心から感謝を申し上げます。

全体会（総合教育センター提案授業、講演会）

総合教育センター提案授業



県立総合教育センター
研修指導主事 早川 貴之



総合教育センターでは、平成 28 年度から 29 年度の 2 年にわたり、「資質・能力の『三つの柱』を総合的に育む授業の在り方に関する研究」（中学校及び高等学校の国語、数学、理科、社会、地理歴史・公民、外国語）を進めてきました。今年度は全体会において、2 年間の研究成果を具体的に示す機会とし、矢巾町立矢巾中学校 1 年 3 組の生徒を会場に招き、中学校国語の提案授業を実施しました。

提案授業の単元展開にあたっては、「学習の道しるべ」と名付けたシートを開発し、何単位時間の単元なのか、各単位時間の学習課題は何なのか、各単位時間においてどんな姿を目指していくのか、といった単元全体の学習の見通しを、授業者と学習者が共有しながら進めるようにしました。また、本研究のもう一つの柱であるパフォーマンス評価を位置付け、「田沢湖のクニマス問題のあらましと筆者の提言についての解釈を記述し、自分の考え（共感・納得・疑問・反論）をまとめる」という言語活動に向けて、ループリック（評価のものさし）を授業者と学習者で共有しながら進めるようにしました。

提案授業では、「少しずつ歩いていかなければならない」と結んだ筆者の提言について、矢巾中学校の生徒は、絶滅の経緯やクニマスを守る条件、筆者の捉えた絶滅の意味、人々の願いに着目し、グループで吟味・検討し、全体で意見交流しながら、提言の意味を具体的に捉え直していきました。言語活動に向けて、文章と対峙し、言葉に込められた意味を検討し合いながら、自分の考えを深めていく、矢巾中学校生徒の価値ある学びが展開されました。

講演会



千葉大学教育学部
特任教授 天笠 茂 氏



千葉大学 特任教授 天笠 茂 氏をお招きし、新たな時代を切り拓く資質・能力の育成に向けて、新学習指導要領において示された「カリキュラム・マネジメント」の趣旨と実現に向けた方策について講演をいただきました。

講演では、中央教育審議会において議論されたことを基に、「カリキュラム・マネジメント」とは何なのか、なぜ「カリキュラム・マネジメント」が必要なのかといった、学習指導要領改訂のグランドデザインについて分かりやすく解説してくださいました。さらに、本提案授業を例に挙げて、一単位時間だけではなく、単元や題材のまとまりとして授業改善を行っていくことの重要性について触れながら、「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」と「カリキュラム・マネジメント」の 2 つは別々なものではなく両輪として進めるべきものであること、学校の教育課程は管理職だけでなく全教職員で一緒に創り上げることが重要であること等について、明快にご示唆いただきました。

天笠 氏の講演により、「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」と「カリキュラム・マネジメント」の二つのキーワードが結び付き、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す「学びの地図」として示された新学習指導要領の趣旨について理解を深める全体会となりました。

特設分科会 1 「学力向上」



岩手県教育委員会では、諸調査結果を活用した「学校の組織的対応の強化」を進めてきました。

特設分科会1では、諸調査結果等に基づいた学力向上に係る「学校の組織的対応の強化」の視点から、平成30年度先進実践校である遠野市立宮守小学校、奥州市立江刺南中学校、県立大船渡東高等学校の取組事例を発表しました。各学校が学年の壁を越えた縦断的取組や教科の壁を越えた横断的取組を見直すためのヒントを得る機会になりました。

<趣旨説明>

学校教育課 指導主事 田村大樹

<発表>

「4つのCで取り組む組織的学力向上」

遠野市立宮守小学校 教諭 似内 慎

「主体的・協動的に学び続ける生徒の育成を目指した『学びをつなぐ』をキーワードとした指導実践」

奥州市立江刺南中学校 教諭 小山 淳

「諸調査結果を活用した、組織的な学力向上の取り組み～目標とデータを共有したPDCAサイクルの活性化を目指して～」

県立大船渡東高等学校 教諭 西村 幹子

<協議>

進行 学校教育課 首席指導主事兼学力向上担当課長 米 慎 司

助言 学校教育課 総括課長 小久保 智 史

特設分科会 2 「学校マネジメント」



「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、人材育成を基盤に据えた学校マネジメントが今後一層重要となってきます。

特設分科会2では、前半に、岩手大学教職大学院の現職院生による校内における人材育成をテーマとした発表、そして、八幡平市教育委員会によるコミュニティ・スクールの取組についての発表を行いました。後半は、「働き方改革」をテーマに、花巻市教育委員会と花巻市立石鳥谷小・中学校による発表、そして、岩手大学大学院教育学研究科 教授 鈴木 久米男 氏をファシリテーターとしてパネルディスカッションを行いました。学校教育の喫緊の課題である「教職員の働き方改革」を進める学校マネジメントの在り方について考えを深める機会になりました。

<発表1>

「教員の研修に対する意識と育成指標をふまえた研修推進シート開発について」

岩手大学教職大学院 現職院生 鈴木 義 幸

<発表2>

「『地域とともにある学校』の実現に向けたコミュニティ・スクールの導入～コミュニティ・スクール推進協議会の設置及び運営を通して～」

八幡平市教育委員会 教育指導課長 川 村 憲 弘

八幡平市立西根第一中学校 校長 熊 谷 治 久

八幡平市立平館小学校 校長 高 橋 浩 幸

八幡平市立寺田小学校 校長 千 葉 千穂子

<発表3>

「組織文化の形成を図る学校組織マネジメントの在り方に関する研究」

花巻市教育委員会 指導係長兼主任指導主事 八重畑 亘

花巻市立石鳥谷小学校 校長 千 葉 勉

花巻市立石鳥谷中学校 校長 富 永 秀 寿

<パネルディスカッション>

「教職員の働き方に対する意識をどのように改革していくか」

ファシリテーター	岩手大学大学院教育学研究科	教授	鈴木	久米男
パネリスト	花巻市立花巻小学校	校長	齊藤	義宏
パネリスト	花巻市立石鳥谷小学校	校長	千葉	勉
パネリスト	花巻市立石鳥谷中学校	校長	富永	秀寿

特設分科会 3 「生徒指導」



岩手県教育委員会では、全ての児童生徒にとって通うことが楽しい魅力ある学校づくりを目指した平成29年度から2年にわたる調査研究事業（不登校の未然防止対策）に取り組んできました。

特設分科会3では、調査研究の成果について、滝沢市教育委員会、滝沢市立滝沢小・中学校にパネルディスカッションの中で発表いただくとともに、国立教育政策研究所総括研究官 中野 澄 氏の講演を通して、不登校対策の充実に向けて学びを深める機会になりました。

<趣旨説明>

学校調整課 主任指導主事 柏 英 保

<パネルディスカッション>

「平成29・30年度魅力ある学校づくり調査研究事業の取組について」

滝沢市教育委員会	主幹兼指導主事	渡邊	康二
滝沢市立滝沢小学校	校長	内村	弘子
滝沢市立滝沢小学校	教諭	夏坂	恵
滝沢市立滝沢中学校	校長	田口	秀一
滝沢市立滝沢中学校	教諭	菊池	文彦

<講演>

「魅力ある学校づくりを目指して」

国立教育政策研究所 総括研究官 中野 澄



特設分科会 4 「プログラミング教育」



2020年から導入される「小学校プログラミング教育」について、総合教育センターでは平成29年度から研究を進めてきました。

特設分科会4では、花巻市立矢沢小学校5年生に協力いただき、算数科における「プログラミングの体験」の提案授業を行いました。コンピュータを用いない学習活動「にんげんプログラミング」、コンピュータを用いた多角形の作図を行う学習活動を取り上げ、既習内容を確実に身に付けるための授業を提案しました。プログラミングの体験について具体的な授業のイメージをもつ機会になりました。

〔内容〕小学校算数 第5学年「多角形と円をくわしく調べよう」

〔授業者〕県立総合教育センター 研修指導主事 黒澤 和 則

〔児童〕花巻市立矢沢小学校 5年2組

<提案授業>

第1時（導入）コンピュータを使わないプログラミング教育（アンプラグド授業）

第2時（本時）コンピュータを活用したプログラミング教育

<研究協議>

助言 岩手大学教育学部

教授 宮川 洋 一





特設分科会 5 「部活動」



部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われるものであり、活動を通じて学校教育が目指す資質・能力の育成に資することが期待されています。

特設分科会5では、宮城教育大学 准教授 神谷 拓 氏の講演、そして、県立一関第一高等学校附属中学校と県立大船渡高等学校の発表とシンポジウムを通して、今後の適切な部活動の在り方について考える機会になりました。

<講演>

「生徒が自分たちでつくる部活動」

宮城教育大学教育学部 准教授 神谷 拓

<発表>

「高い志をもち、主体的に学び続ける生徒の育成～生涯にわたってスポーツ・文化芸術に親しむ基盤づくりを目指す体制の構築を通して～」

県立一関第一高等学校附属中学校 副校長 千田 幸喜

「よりよい部活動を目指して」

県立大船渡高等学校 教諭 國保 陽平

<シンポジウム>

「自主的・主体的な部活動の推進」

コーディネーター	宮城教育大学教育学部	准教授	神谷 拓
シンポジスト	県立一関第一高等学校附属中学校	副校長	千田 幸喜
シンポジスト	県立大船渡高等学校	教諭	國保 陽平
シンポジスト	県文化スポーツ部スポーツ振興課	主任主査	三ヶ田 礼一



分科会－17 分科会実施－



参加者の声～アンケートから～

発表会にご参加いただいた皆様に、会運営や所員等の発表内容について、アンケートを実施しました。

<おことわり>

- アンケート回収枚数は719枚です。
- 割合の合計は、端数処理のため100にならない場合があります。
- 未回答があるため、所属校種の合計はアンケート回収枚数と異なります。

所属校種	幼稚園等 保育所	小学校 (義務教育学校前期課程)	中学校 (義務教育学校後期課程)	高等学校	特別支援学校	その他
上段：回答数	27	285	218	82	47	34
下段：割合%	3.8%	39.7%	30.4%	11.4%	6.5%	4.7%

全体会	名称	大いに 参考になった	参考になった	あまり参考に ならなかった	参考に ならなかった
人数 [割合%]	総合教育センター提案授業	132 [48.4%]	123 [45.1%]	17 [6.2%]	1 [0.4%]
	講演会	133 [47.8%]	124 [49.0%]	20 [7.2%]	1 [0.4%]

特設分科会	分科会名	大いに 参考になった	参考になった	あまり参考に ならなかった	参考に ならなかった
人数 [割合%]	特設1「学力向上」	39 [52.7%]	30 [40.5%]	5 [6.8%]	0 [0%]
	特設2「学校マネジメント」	37 [59.7%]	25 [40.3%]	0 [0%]	0 [0%]
	特設3「生徒指導」	28 [84.8%]	5 [15.2%]	0 [0%]	0 [0%]
	特設4「プログラミング教育」	36 [61.0%]	22 [37.3%]	1 [1.0%]	0 [0%]
	特設5「部活動」	31 [68.9%]	14 [31.1%]	0 [0%]	0 [0%]

アンケートの 記述から (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> ・センターによる提案授業という研究発表会の企画に感動しました。授業の実際に触れる、しかも力量のある教師のそれに触れることができる機会として、とても深い学びができました。ありがとうございました(中学校)。 ・(天笠 茂 氏)の講演の内容はとても興味深く、学習指導要領から手法としてのカリマネ、アクティブラーニングに至る流れを分かりやすく、具体的に話していただきました(中学校)。 ・(特設分科会2)青森県から参加しました。働き方改革については一歩進んでいると思いました。青森には全県的なこのような発表会がないので、良いことだと思います。ありがとうございました(県外)。 ・特設分科会3「生徒指導」では大変勉強になりました。少しでも地域の児童・生徒・先生方のために伝え、改善できる手立てを考えていきたいと思いました(中学校)。 ・「プログラミング教育」の発表はとても楽しかったです。子供たちが「あれっ？」と思う場面があり、それがきちんと解決し、納得して理解していくプロセスが大いに参考になりました(小学校)。 ・(特設分科会5「部活動」)時間配分もよく、内容の理解もできましたし、深みも多く感じることができました。現場に戻り参考にさせていただきたいと思います(高等学校)。 ・道徳分科会に参加させていただきました。道徳においては、講演会により教科化や、評価について詳しいお話をいただき、今回の授業に生かしていこうと思いました。ありがとうございました(小学校)。 ・(特別支援教育分科会)関係機関連携ハンドブック、LD等通級教室の経営はとても参考になりました。また、様々な実践を知り、これからは役に立てられそうです(小学校)。
------------------------	---

★アンケートにご協力くださった皆様、大変ありがとうございました。今回のアンケート結果を来年度の研究発表会の運営や所員等の研究推進に生かしていきます。来年度も先生方の多数のご参会をお待ちしております。

[センターのホームへ](#)